

会 議 録

会議名 (審議会等名)		さがみはら ^{こくさい} 国際 ^{けんとう いんかい} プラン ^{だい かい} 検討委員会(第3回)				
事務局 (担当課)		シティセールス・親善 ^{しんぜんこうりゅうか} 交流 ^{でんわ} 課 電話042-707-7045(直通 ^{ちよくつう})				
開催日時		平成31年3月11日(月) 18時30分~20時45分				
開催場所		相模原市役所 ^{さがみはらしやくしょ} 本館 ^{ほんかん} 2階 ^{かい} 第1特別 ^{とくべつかい} 会議室 ^{ぎしつ}				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人 (^{しょうがいぶ} 渉外部 ^{ちょう} 長、 ^{しんぜんこうりゅうか} シティセールス・親善交流課 ^{ちよう} 長、他 ^{ほか} 3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 ^{かいかい} 開会 2 ^{しゅつにゆうこくかんり} 出入国管理 ^り 及び ^{なんみんにんていほう} 難民認定法 ^{かいせいとう} の改正等について 3 ^{きほんりねん} 基本理念・ ^{きほんもくひょう} 基本目標について 4 ^{しさく} 施策・ ^{おも} 主な事業 ^{じぎょう} について 5 ^た その他				

審 議 経 過

第3回検討委員会について、主な内容は次のとおり。

(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 出入国管理及び難民認定法の改正等について

出入国管理及び難民認定法の改正等に係る状況について、委員間で情報共有を行った。

特定技能2号は、在留資格の更新が必要とあるが、何年の滞在が可能となるのか。対外的に出ている情報を見ると、滞在期間に制限はないと出ている。

特定技能2号になると、家族の呼び寄せも可能となる。

特定技能1号、2号の方はある程度日本語ができると思われるが、呼び寄せられる家族に対する対応も重要

家族に対する支援についても検討していきたい。

3 基本理念・基本目標について

委員からの意見を踏まえ、第3次さがみはら国際プランに位置付ける施策とリンクさせながら引き続き検討を行うこととなった。

前回事務局から説明のあった「引きつけ」という文言について、違和感があると発言したが、「呼び込み」という文言についても、やはり違和感がある。「世界の人や企業に選ばれる」というような表現でもよいのではないか。

「世界の人や企業と連携して」という表現はどうか。

具体的な施策の中に、「呼び込む」ことをイメージできる事業がない。施策とリンクさせながら考えた方がよい。

4 施策・主な事業について

委員からの意見を踏まえ、事務局において再度整理することとなった。主な意見等は次のとおり。

< 施策1 - 1 >

私の自治会にベトナム人が5人転入してきたが、採用した企業がごみの捨て方などをしっかり教えており、地域において問題なく生活されている。

企業における取組事例を広報する、あるいは他の企業に伝えるというようなこ

とはできるのではないか。

国際化に取り組む関係団体に加え、直接外国人を雇用している企業間の情報交換の場が必要だと考える。

企業の人事担当者などを対象に、外国人社員を雇用するにあたっての研修カリキュラムのようなものを設けていく必要があると思われる。

今回提示している素案は行政内部で検討したもの。今ご指摘のあったとおり、民間企業の視点、また、生活者の視点から点検していただきたい。

「ホストタウン相手国」という表現があるが、ホストタウンに限定しなくてもよいと思う。「オリンピックを契機として交流を進める」として、一般的な表現にした方がよいのではないか。

「多文化理解」と表現しているが、これは「異文化」であれば、日本人が外国人を理解するという一方向をイメージするが、「多文化」であれば、「日本人と外国人の相互」あるいは「外国人どうし」ということもイメージできる。この点をさらに強調するのであれば、施策の基本方向1の説明文2行目で「一人ひとり」と表現されているが、「外国人市民と日本人市民の一人ひとり」とする方がよい。

< 施策1 - 2 >

ここに記載の表現は現プランと変わりが無い。文化だけではなく、共生の精神を教える必要がある。

小学校の国際理解活動について、子どもだけでなく親も参加してほしい。親に対する国際理解活動も必要

< 施策2 - 1 >

外国人市民はワンストップサービスを望んでいるのではないかと思う。

国の総合的対応策の中にも、一元的相談窓口という表現がある。このことを念頭に、現時点では「相談体制の整備充実を図る」と記載しているが、さらなる書き込みができないか再度検討する。

医療機関も、医療費が支払われる保障がないと診療することが難しい。外国人が保険に加入する仕組みが必要である。市では直接できない部分だが、外国人を雇用する企業に保険加入を促し、医療機関を安心して受診できる環境づくりが必要ではないかと思う。

住宅確保の支援について、賃貸住宅の登録をどこに行うのかが分からないなど、分かりづらい表現となっている。

再度整理する。

＜施策2 - 2＞

「多言語で発信する」と表現されているが、現時点でもホームページなどで多くの資料が多言語で発信されている。問題は、その多言語資料に外国人市民が到達できていないこと。

現在は、市ホームページや紙媒体で情報発信しているが、スマートフォンの普及を考えると、今後は例えば、SNS やアプリを活用した発信も行ってきたい。

多くの外国人市民は企業に雇用されている。市役所と企業の連携が取れていれば、企業を通じて外国人市民に情報が届く。

多言語というが、どの程度までの多言語化を考えているのか。

国際交流ラウンジでは現在9言語対応を行っているが、一方で、やさしい日本語であれば理解できるという外国人市民もたくさんいる。多言語化も必要だが、やさしい日本語をツールとして使いこなすということも重要になると考えている。

日本固有の言葉、例えば「防災」という言葉をそのまま外国語に訳しても外国人には通じない。やさしい日本語で提供していくことが重要だと考える。

学校からの通知も保護者は理解できない。学校関係の情報も考えなければいけない。

＜施策3 - 1＞

外国人市民のまちづくりへの参画という視点においても企業は重要な役割を持つと考える。地域の情報について、企業を通じて流すことができる。

外国人市民にとっては自治会加入のメリットが分からない。

自治会について、一番身近なところではゴミ捨て場の管理を行っている。また、災害時には自治会を通じてお互い助け合いを行うことになる。市からの情報提供についても、自治会を単位として行うことが多い。

自治会の役員に一人でも外国人市民が入れば、他の外国人市民は誇りに思い、自治会への関心も高まると思う。

＜施策4 - 1＞

「企業内のグローバル人材育成を目的としたセミナーの開催を推進する」とあるが、この実施主体が市なら「企業内の」という表現は合わない。また、企業だとすると「推進する」ではなく「促進する」となるので整理が必要

「国際的なビジネス拠点の形成」というタイトルは良いが、さらに説明が必要。例えば、グローバル企業の集積や広域交通ネットワークを生かした拠点づくりなどを記載し、市がコーディネートしていくということで、もう少し大きく表現

してよいのではないか。

施策の基本方向4の説明文の中で、一番最後に「外国人観光客の誘致」とあるが、「誘客」の方がよい。

< 施策4 - 2 >

「首都圏南西部における」とあるが、あまり意味はないと思うので、削除してもよいのではないか。

「プレ・アフターコンベンション」という文言について、アフターコンベンションという言葉はよく使うが、プレはあまり使わない。アフターコンベンションだけで通じるのではないかと感じる。

相模原市に住んでいる外国人市民に対し、市の魅力を伝える取組が必要ではないか。

「大都市圏で開催される」と記載しているが、他の都市でやっているものを持ってくるといことなので、「大都市圏」という表現はいらぬのではないか。

< 施策4 - 3 >

情報発信の中に、SNSという言葉を入れておいた方がよい。

< 施策5 - 1 >

相模原市は友好都市として無錫市とトロント市しか考えていないのか。無錫市とトロント市について、経済、文化、市民レベルでの交流が見えず、友好都市である意味合いが薄れている気がする。

新たな海外都市との交流については、友好都市という形にとらわれず、相手都市と相互にメリットをもたらす分野の連携・交流を推進していきたいと考えている。これからの友好都市のあり方というのは、これまでとは違い、経済の分野に特化した協定や学生の交換留学協定など、目的をはっきりとした中で、取り組んでいく必要があると考えている。

無錫市とトロント市に関する表現についてはもう少し抑えてもよいと考える。

今後は意味のある都市間交流を進めていく必要がある。

< 施策6 - 1 >

青年海外協力隊は赴任国を希望できることになっており、相模原市の多文化共生社会の推進にとってどんな人材が必要かということ踏まえた上で、戦略的に行っていただければと思う。

SDGsについて、市としての方針が決まれば、ここに何らかの形で記載した方がよいのではないか。

< 施策 7 - 1 >

連携する主体として企業も入れるべきである。

< 施策 8 - 1 >

市役所内の連携についての表現があるが、あえて計画として記載する必要はないだろう。

国際交流ラウンジの体制強化について、ボランティアを養成して担い手を確保することで、運営体制の強化を図ることを目指すのか。

ボランティアを確保するなど、ということなので、ボランティアのことだけを言っているわけではない。国際交流ラウンジについて、ボランティアだけで担うことは難しいと考えており、専任のスタッフを置くなど、今後検討していきたいと思っている。そのあたりも含め、「など」という言葉で集約している。国際交流基金の中にある「友好都市との周年記念事業」という表現も不要ではないか。

< 施策 8 - 2 >

地域における人材育成の中で、「多文化コーディネーター」という文言を加えた方がよい。

5 その他

参考資料として配付した「平成30年度相模原市外国人懇話会について」に関する説明を行い、委員間で情報共有を行った。

以上

さがみはら^{こくさい}国際^{けんとう}プラン^い検討^{いんかい}委員会^{だい}（第3回）^{かい}委員^い出欠^{しゅっけつ}席名^{せきめい}簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	石川 敏美 いしかわ としみ	公益財団法人 相模原市産業振興財団 常務理事		出席
2	小野崎 宏子 おのざき ひろこ	相模原市立小学校長会 淵野辺小学校長		欠席
3	川上 宏 かわかみ ひろし	公益財団法人 相模原市体育協会 常務理事		出席
4	北村 美仁 きたむら よしひと	一般社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
5	金 愛蓮 きむ えよん	さがみはら国際交流ラウンジ 運営機構 代表		出席
6	熊谷 晃子 くまがい みつこ	独立行政法人 国際協力機構 横浜センター所長		出席
7	鯉田 哲子 こいだ てつこ	公募委員		出席
8	坂本 堯則 さかもと たかのり	相模原市自治会連合会 会長		出席
9	佐藤 雲美 さとう くもみ	公募委員		出席
10	柴田 マリーグレイス しばた	公募委員		出席
11	杉岡 芳樹 すぎおか よしき	相模原商工会議所 会頭	副委員長	出席
12	牧田 東一 まきた とういち	桜美林大学 教授	委員長	出席